



落穂会だより

夏季号 2015.7

社会福祉法人 落穂会
 鹿児島市皆与志町2503番地
<http://www.asahigaokagakuen.jp/>

障害児入所施設
あさひが丘学園
(Tel 238-4821)

障害者支援施設
あさひが丘
(Tel 238-4821)

地域生活支援センター
あさひが丘
(Tel 243-1112)

障害者支援施設
旭福祉センター
(Tel 244-3551)

障害福祉サービス事業
第二旭福祉センター
(Tel 244-3551)

<http://www.asahi-center.com/>



あさひが丘学園 保護者会総会

ぎゃらりーあさひや紹介

作品見学・販売の様子

「障害者の個性と成年後見」
 顧問司法書士 芝田 淳

現在、新たに三名の知的障害者の方の成年後見人等に就任すべく手続を進めています。先日、この三名の方に同じ日にお会いしました。一人目の方は、面会と聞いてご家族が来られると思っていたのに私だっただけがっかりされてしまいました。二人目の方は、終始にこやかに、最後は握手をして「また来てね」と言って下さいました。最後の方は、ずっと「自分の仕事の話ばかりでしたので、さっさと「お兄さんと一緒にまた来ますね」と申し上げると「お兄さんを連れてきて下さい。待っています」と答えて下さいました。三者三様の個性がかいま見えた豊かな時間でした。

これから、私には、それぞれの方に「成年後見人」の意味まで分かっていただけでなく、ご家族やあさひが丘学園のみならずと同じように、「なにかあったらあの人にも相談してみよう」と思ってもらえる存在になれるよう関係を紡いでいきたいと思います。

知的障害者の方の権利を擁護するために、まずご家族の支援があり、また、障害者福祉サービスによる支援があります。成年後見制度は必須には思われなくてもいいかもしれません。しかし、障害者本人が支援の対象としてではなく権利の主体として行動するためには、また、尊厳を守られるのではなく、自らが誇りと尊厳を持って生きるためには、あらゆるものから独立して本人の意見を代弁できる成年後見人が必要なきともあると思います。そして、成年後見人としてそうした大切な役割を果たすためには、ご本人が持つそれぞれの個性を最大限尊重し、個人と向き合い、その思考や選択を理解できるように関係を紡ぐ努力が必要なのだろうと思っております。

三者三様の面談を終えた帰路、そんなことを考えていました。

新入所者紹介

◆あさひが丘学園
 石原 由喜さん
 お友達と仲良く、毎日元気に頑張りたいと思います。

西橋 政孝さん
 自分の目標に向かって充実した学園生活を送りたいと思います。よろしくお願ひします。

宮田 可南さん
 楽しい学園生活を送りたいです。よろしくお願ひします。

新通所者紹介

◆あすもね
 竹内 健斗さん
 お仕事をがんばってたくさん温泉に行きたいです。

湊 雄太さん
 お仕事を頑張つて、お給料で大好きな文房具をたくさん買いたいです。

◆旭福祉センター
 福永 菜里子さん
 友だちをたくさん作って、しごとがんばります。

退所者

◆あさひが丘学園
 神村 由さん(自宅)
 佐藤 絢香さん(グループホームももか)

新任職員紹介

◆あさひが丘学園
 日高 光子 支援員
 分からないことだらけで戸惑いますが、仕事を確実にできるように頑張りたいです。

◆地域生活支援センター
 長野 玲子 指導員
 子どもたちと笑顔で過ごせるようにたくさん関わりたいです。

山本 文輝 運転士
 皆さんに安心して乗って頂ける様に安全運転に努めてまいります。

上園 勇 運転士
 子供の命を預かる仕事。安全運転をモットーに頑張りたいです。

◆児童発達支援 セルク
 小島 美由紀 保育士
 みなさんの日々の成長がとても楽しみです。よろしくお願ひします。

福永透さまよりご寄付を頂き、地域生活支援センター裏庭の芝生張替えとすべり台を設置いたしました。職員一同感謝申し上げます。天気の良い日には歩路や我路を利用する子どもたちが芝生の上で元気いっぱい体を動かすことができるようになりました。ありがとうございました。

◆旭福祉センター
 岩切 沢磨 支援員
 利用者さんから信頼されるよう日々の仕事に努めたいと思います。

中村 優香 支援員
 笑顔と明るさを大切に、利用者の方と楽しみながら支援していきたいと思ひます。

四元 優伽 支援員
 分からないことばかりですが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

編集後記

六月に入り、本格的な雨のシーズンとなりました。この時期は、気持ちも体も滅入りますが、これも自然の恵みと思えるようになりたいものです。

さて、今年度より、落穂会だより編集委員の役を仰せつかりました。この広報誌を多くの方に、毎回楽しんで購読して頂けるように頑張りたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。(E)

カフェのどか オススメ!

今回は大人気のランチプレート新メニューの紹介!! シェフの気まぐれでその日のメインが変わるプレートは、旭福祉センターで採れた野菜をふんだんに使用した野菜の3種盛りとドリンク、さらにベーカリー極で作ったパンもついています。ちょっと贅沢なランチを是非ご賞味ください!



◆ 行事報告 ◆

- 4月4日(日) グループホーム花見
グループホームあさひが丘入居者33名で吉野公園に花見に出かけました。当日は、天候も悪く桜の花びらも散っており、地域生活支援センターに戻り昼食・カラオケ大会を行いました。花見よりもカラオケ大会を満喫した一日となりました。
- 4月12日(日) 落穂会・ゆうかりふれあいバザー
落穂会・ゆうかりふれあいバザーが、ゆうかり学園で開催されました。当日は、天候にも恵まれ総勢1000名を超える来場者がありました。あさひが丘からも陶芸品やネームボード、花苗など出店し多くの来場者があり、にぎわいました。旭福祉センターでは、菓子や陶芸品、花苗、野菜などの販売を行いました。利用者のみなさんも、大きな声で商品を販売する姿があり、みなさんとても楽しそうでした。また、ボランティアで参加していただいた関係者の皆様、ありがとうございました。
- 4月25日(土) 知的障害関係親善球技大会
桜島溶岩グラウンド、体育館で知的障害関係親善球技大会が行われました。あさひが丘学園、地域生活支援センターからは、グランドゴルフ(10名)とティーボール(18名)に参加しました。初めて参加したティーボールでは、第一試合(あじさい)第二試合(さちかぜ)と2勝をあげましたが、得失点差で決勝トーナメントにあがることは出来ませんでした。利用者の皆さんは楽しそうに競技に参加していました。旭福祉センターでは、ソフトバレーの部で参加しました。予選を順調に勝ち進み、準優勝することが出来ました。参加した利用者のみなさんは、笑顔でいきいきとプレーし、とても楽しい大会となりました。応援ありがとうございました。
- 4月26日(日) 保護者会総会
地域生活支援センターで保護者会総会が行われました。全体では、43家族50名の保護者が参加しました。全体総会では、平成26年度事業報告及び決算報告などを行いました。また、芝田淳司法書士の顧問就任の議案が承認されました。その後、あさひが丘学園とワークショップあすもね・グループホームあさひが丘に分かれ合同の保護者会を実施、日ごろの生活や活動の様子をお伝えしました。
- 4月26日(日) 吉野兵六ゆめまつり
あさひが丘より、吉野公園で行われた兵六ゆめまつりに出店しました。たくさんの方々が来場があり、アルファベットボードの販売が好評でした。
- 5月2日(土) パーベキュー誕生会
あさひが丘学園でパーベキュー誕生会が行われました。利用者105名、職員46名が参加し、園庭でコンロを囲みパーベキューを楽しみました。
- 5月4日(月)・5日(火) グループホームあさひが丘GW外出
GW期間中、2日間に分けて霧島方面(9名)・砂の祭典(16名)に出かけてきました。両日とも天候も良く、久しぶりの遠出ということもあり、皆さんそれぞれの場所でGWを満喫していました。
- 5月10日(日) 第9回障害者スポーツ大会
ふれあいスポーツランドと鴨池陸上競技場で第9回障害者スポーツ大会が行われました。あさひが丘学園と地域生活支援センターから陸上競技(4名)、フライングディスク(10名)、ボウリング(1名)、レクリエーション(13名)に参加しました。旭福祉センターではフライングディスクに1名、的倒しに5名参加しました。フライングディスクは風の影響もあり、残念ながら入賞は逃しました。

- 5月15日(金) 乗馬クラブ起工式
あさひが丘にて、今年10月乗馬療法実施をめざし厩舎等建築工事の起工式を行いました。
- 5月17日(日) 農林水産春祭り
あさひが丘より、都市農業センターの農林水産春祭りに出店しました。創作品や花苗を中心に販売しました。たくさんのご来場ありがとうございました。
- 5月20日(水) 合同保護者会!(歩路・セルク・トリア)
3か所の児童発達支援事業所合同の保護者会を実施し19家族19人が参加しました。療育活動の紹介を行った後、5グループに分かれて茶話会を行いました。保護者から自宅での様子など多数のご意見・ご感想をいただきました。
- 5月23日(土) サクラカネヨ倉庫直売市(いちき串木野市)
あさひが丘より、初出店を行いました。2カ月に1回の催しであり、地域の方々などたくさんの方が参加しました。
- 5月24日(土) ノジリ建設ボランティア
あさひが丘学園の側溝掃除の砂あげ作業をノジリ建設の方々ボランティアでしてくださいました。ユンボを使用し手際よく作業が進みました。日頃、できない難しい作業だったので助かりました。ありがとうございました。
- 5月30日(土) 日中活動参観(あさひが丘、あすもね)
あさひが丘、地域生活支援センターで日中活動参観が行われました。あさひが丘には、35家族42名が参加しました。ワークショップあすもねには、10家族12名が参加し活動の様子をみてもらいました。活動終了後は、日中活動ごとになわかれ、職員と保護者での懇談会が行われました。
- 6月7日(土) 放課後等デイサービス我路保護者会
地域生活支援センターの放課後等デイサービス我路保護者16家族19名が参加され、写真を使い日頃の活動内容や様子を説明しました。その後、小学部・中高等部を3つのグループに分け意見交換を行いました。卒業後の進路や我路への要望など様々な意見交換が行われ、普段はなかなか聞くことができない貴重なご意見を多数いただきました。ありがとうございました。
- 6月5日(金) 救急救命講習
あさひが丘学園にて救急救命講習が行われ20名の職員が講習を受けました。伊敷分遣隊指導のもと心肺蘇生やAEDの使用等について学びました。
- 6月5日(金) テーマ別研修
あさひが丘学園にて「強度行動障害について」というテーマで鹿児島県こども総合療育センター 地域支援専門監 田邊貴仁氏に講演していただきました。73名の職員が参加し行動障害の行動分析、支援法について学びました。
- 6月11日(木) バイクン誕生会
あさひが丘学園で、バイクン誕生会が行われました。102名の利用者が参加、前後半に分かれて、ゆっくりとバイクンを楽しみました。
- 6月14日(日) 保護者ボランティア
あさひが丘学園、地域生活支援センターの保護者ボランティアが行われ22家族23名職員16名が参加しました。お父様方にはネームプレートの制作準備と館内清掃、お母さま方にはボンボン、シユシユ作りに取り組んでもらいました。あいにくの天気でしたが、たくさんの方が参加して下さいました。ありがとうございました。

障害者総合支援法施行三年後の見直しについて①

あさひが丘学園統括施設長 水流純大

障害者総合支援法が平成二十五年四月より施行されたが、「常時介護を要する障害者等に対する支援、障害者等の移動の支援、障害者の就労の支援その他の障害福祉サービスの在り方」や「障害支援区分の認定を含めた支給決定の在り方」等については、法施行後三年を目途として検討されることになっていた。

今年一月、検討を始めるに当たり論点整理を行うためのワーキンググループが厚生労働省障害保健福祉部長のもとにおかれた。ワーキンググループによって整理された論点は下記のとおりである。

①常時介護を要する障害者等に対する支援について
②障害者等の移動の支援について
③障害者の就労支援について
④障害支援区分の認定を含めた支給決定の在り方について
⑤障害者の意思決定支援、成年後見制度の利用促進の在り方について
⑥手話通訳等を行う者の派遣その他

他の聴覚、言語機能、音声機能その他の障害者ための意思疎通を図ることに障害がある障害者等に対する支援の在り方について
⑦高齢の障害者に対する支援の在り方について
⑧障害児支援について
⑨その他の障害福祉サービスの在り方等について

上記の各論点について、一、二月にかけて関係団体からのヒヤリングを経て、各論点ごとにさらに検討項目を整理し、四月に発表された。例えば、①常時介護を要する障害者等に対する支援については、「どのような人が常時介護を要する障害者であると考えられるか」「常時介護を要する障害者のニーズのうち、現行のサービスでは何が不足しており、どのように対応すべきか」「同じ事業の利用者であっても、障害の状態等により支援内容に違いがあることについてどう考えるか」「パーソナルアシスタンスについて、どう考えるか」「パーソナルアシスタンスと重度訪問介護

ソナルアシスタンスと重度訪問介護との関係についてどう考えるか」などのように検討項目が整理されている。

ワーキンググループにおける論点整理を受けて、検討の舞台は四月から社会保障審議会障害者部会に移った。障害者部会では、五、六月に関係団体からのヒヤリングを実施し、七月からは月二回のペースで個別の論点を議論、年内に報告書をまとめ、平成二十八年の通常国会に改正法案が提出される予定である。

四月二十八日に開催された第一回部会の冒頭で障害保健福祉部長が「障害福祉は相当大きな予算規模になった。持続可能性が大切だ。理想を語るだけでなく現実と向き合った議論をお願いしたい」と、いきなり予算に言及したと報道された。これは、財務省が社会保障関係費の抑制策の一環で障害福祉の見直しの論点を財政制度審議会に示したことと関係しているものと推察される。財務省が示した見直しの論点は下記の通りである。

①全事業所への実地指導の徹底
②障害支援区分の二次判定のばらつき是正
③短期入所・生活介護の利用の適正化
④居宅介護の家事援助の抑制
⑤一部のサービスは地域生活支援事業を活用
⑥障害支援区分に応じた利用限度額の導入
⑦通所サービス利用者に対する食費負担軽減措置の見直しを含む利用者負担の在り方

以上であるが、すべての項目において支出抑制を図る意向が明白である。今年度の報酬改定で、介護報酬はマイナス二・二七%、障害福祉サービスはプラスマイナスイナス〇%であったが、財務省は介護報酬に関しては三年後の報酬改定でもさらなる引き下げ方針を打ち出している。

障害者自立支援法の施行により義務的経費化されて以降、障害福祉予算は毎年十%程度の伸びを示しているため財政との均衡は重要であるが、一律な支出抑制ではなく、障害のある人々が本当に必要なところには手が届くような制度改正を望みたいものである。

「ぼくがかんぱってんこと」

さんぽみち



あさひが丘学園 利用者
清 隆 浩

ぼくが運動会でがんばったことは徒競争で一番になったこと、ダンスや招集編成の係りでいろんなことががんばりました。

学校で委員会の書記や学級委員長、学年委員長になりました。学園では、自治会の会長になりました。

学園では、職員やA・B棟の友達とダンボール工作で一眼レフや携帯電話を作っています。携帯電話を作る



【ツツとカメラ】
時には横の部分を作るのが難しいです。学園の秋祭り、ダンボール工作で作った作品を展示するので、ぜひ、見に来てください。

「時 間」



旭福祉センター 保護者
西 野 すみ江

妹が生まれる前の話ですが、私は母の膝元で昼寝をしていたと思いません。目を覚ますと、いつの間にか祖母

母か従兄の膝元で寝ていた記憶がありません。「あれ、お母さんがいない。」と泣く私を祖母や従兄はあやしてくれ、バナナという食べ物に負けてしまったことを今でも思い出します。妹が生まれ、夜に祖母と一緒に妹を病院に見に行きました。色白いつてもかわいいう妹「ちーちゃん」の誕生です。

私が三歳の時の記憶ですが今でもよくこの場面を思い出して懐かしく思います。

いつの時から私が気付いた時は、妹のちーちゃんは普通の妹とは違い、話すことも感情を表現することもうまくできず、人とのつき合いもうまくできない妹でした。そのため、妹の心は私たちには分からず、時々妹は涙を流していることもありました。妹自身も苦しんでいると思いましたが、声をかけたり抱き寄せることしか出来ず時間は過ぎていきました。両親も大変だったと思います。親だから当たり前なのかもしれないですが、妹に対して基本的な生活習慣を身につけられるように一生懸命接していたと思います。今思えば、あの時はかわいそうに思っていました。今妹が一人でも最低限の習慣が付いているのは両親の努力だと思っています。

妹も成長とともに集団生活の場に入り、わかば園から附属養護学校といろいろと経験を積み、行動範囲が増えました。妹は、一瞬でも目を離すとその辺にはいません。探すことも大変でした。いろんな方にもお世話になり、ご近所や学校の先生方、保護者などに協力してもらい探すこと

今回は、あさひが丘学園内に完成した「ぎやらりーあさひや」にスポットをあてたいと思います。

○ぎやらりー完成おめでとうございます。オープン後の反応はどうですか。



「あさひや」にスポット
あさひや ASAHIYA オープン
～みなさん、お越しください～

お客様方からは、「作品のあたたかさを感ずる」「木のいい香りに癒される」等の声を頂いています。まだまだ、一般の方々の認知度は低く、現在、リーフレットやホームページ等で広報活動を進めています。

○ぎやらりーを作るきっかけ、店の名前の由来を教えてください。

利用者の方々と共に作品作りを進める中で、作品に触れる度に何と

言えない「あたたかさ」を感じる瞬間が多くありました。そんな「あたたかさ」をもっと多くの方々に味わってもらいたいという思いがあり、ぎやらりーをオープンすることになりました。

作品に触れるお客様の様子を見る利用者の方々と、喜んでもらえているという事を間近で感じることが出来るというように、更に作品作りにも励みます。

屋号の意味は、「あさひや」と聞くと、何だか昔ながらの老舗のイメージが溢れてきました。設立五十七周年であるあさひが丘学園のよき伝統を引き継ぎながら、一日の始まりである「あさひ(朝日)」の様に、みんなを包み込み、光を照らしてくれる場所。人と人とのつながりの中で生まれる「あたたかさ」、作品に触れる度に味わえる「あたたかさ」。そんな「あたたかさ」溢れる場所になつて欲しいという願いを込めました。

○営業時間や商品は誰でも買えますか。

オープン時間は、平日(月～金)は、午前10時～午後4時。

土日祝日は、来店前に電話して頂ければオープンすることが可能です。

老若男女問わずとんでもなく、是非一度足を運んでください。

「命」



旭福祉センター 職員
杉 田 哲 史

とも何回もありました。しかし、行動範囲も落ち着き、待つことを覚えたのか徐々に減っていききました。そんな妹ですが、旭福祉センターにお世話になり、二十二年になりました。最初は、コミュニケーションがうまく出来ない妹が馴染めるか心配でした。今では先生方や利用者・保護者の皆様のお陰で少しずつ進歩もあります。一つは、感情の表情の中で好き嫌いが一部出てきたことでしょうか。とっても有難いことです。これからも、妹に限らず私たち家族へもご指導よろしく願っています。

最後に、私は「ちーちゃん」が好きです。私の妹で良かった。私自身が妹に学ぶことが多いです。ちーちゃんこれからはよろしくね。

一昨年の四月。私が旭福祉センターに勤めるようになって丁度一ヶ月が経とうとしている頃に大事件が起きました。第一子の誕生です。もちろん喜びは大きかったです。まだ新しい職場環境に慣れておらず、心身共に疲れが出始めた頃のことだったので、正直不安も同じくらいありました。

職場では毎日新しいことを教わり、家ではスバルな嫁から沐浴やおむつ交換、ミルクの作り方等を叩き込まれ、新しいことのオンパレードで頭はオーバーヒート寸前でした。追

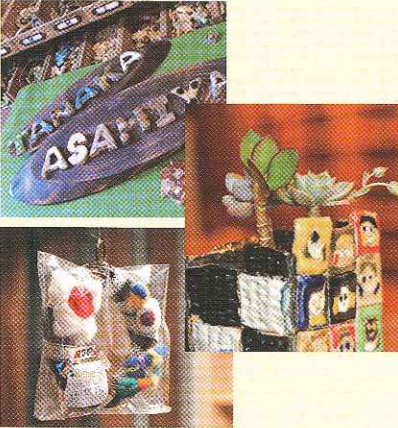


あさひが丘学園のホームページにも商品画像や情報を発信予定です。



○ぎやらりー完成後、みんなの作品作りのモチベーションはあがりませんか。また、おすすめ商品はなんですか？

陶芸では、利用者の方々と作った鉢に多肉植物を寄せ植えした作品や、アルファベットボードが人気商品で



い打ちをかけるかのように毎晩夜泣きに悩まされ、精神的にだいたい参っていたことを覚えています。それでも、夜泣きで泣き疲れて眠った子どもの顔を見ていると、疲れは吹き飛び、守ってあげなければいけない、この子のために頑張ろうという気持ちにさせてくれました。

現在、勤め始めて三年目に入りました。様々な仕事を任せられるようになって、普段の作業時はもちろんのこと、夜勤や送迎時の運転等、利用者の命を預かる場面も多くなってきました。やりがいも感じますが、命を預かることの責任の大きさも身をもって感じています。

最近毎日のように命が失われる事件が起り、報道されています。子どもが産まれてから、特にそのような事件に敏感に反応するようになりました。特に子どもが犠牲になるような事件には本心が痛みます。「もし自分の子どもが」と考えると動悸が激しくなります。代われるものなら代わってあげたいという気持ちにすらなります。

私にはすべての人を守るような力はありませんが、せめて自分の手の届く範囲にいる人の命は守っていきたくと思っています。それは自分の命も含め、家族であり、子どもであり、友であり、同僚であり、そして利用者であると考えています。今後はそれを実行していく為に必要な力をつけていくことができると、これまでも以上に学んでいきたいと思っています。

さんぽみち

羊毛フェルトで作った可愛らしいモバイルも、お客様方の目を引く作品の一つになっています。

自分たちが作り上げた作品を手にしたお客様が、笑顔で作品を購入していく姿を目の当たりにした利用者の方々は、つられるような笑顔を見せ、「買ってくれたね」「お血つくる」と次の作品作りに対しての意欲が更に倍増しているようです。

○今後、どんなぎやらりーにしていきたいですか？

名前の由来の通り、「あたたかさ」を求めて人が自然と集まる場所になればと思っています。学園関係者だけでなく、地域の方々や作品やぎやらりーの放つ魅力に引き付けられて集まってくる方々の触れ合う中で、さらに人と人とのあたたかさ生まれ、居心地の良い空間になればいいなと思っています。今回、あさひが丘ぎやらりー第一号店としてオープンしました。より多くの人に「あたたかさ」を感じてもらえるよう、二号店、三号店と進出していきたいと思っています。





すなつぶスナツプ

